

平成30年度 第5. 6学年 家庭科 授業改善推進プラン

教科	1学期に実施した工夫と課題	課題を受けた今後の改善策
5・6年	<p>【課題】 (裁縫) ★一人で実習に取り組めない児童が少なからずいる。自ら理解し、考え、課題に取り組めるようにさせたい。また、途中まででも、自力で取り組もうとする意欲をもてるようにさせたい。</p> <p>(調理) ★実習のグループ内での役割分担や手順がより早く理解でき、スムーズに意見調整をして、活動内容に全員が手早く参加できるようにしたい。また、個人のワークシートに自分の意見や考えを書き、グループの話し合いの時に活用できるようにさせたい。</p> <p>【工夫】 ☆指導目標の明確化と学習の見通し ・一人一人が2時間の授業内容の見通しをもって活動できるように活動の流れとポイントがわかるような板書を工夫している。</p> <p>☆補助教材の活用 ・実習上のつまづきやすい部分を拡大して黒板に掲示するなど、視覚的に学習内容がわかりやすく理解できるように掲示物や見本の工夫をしている。</p> <p>☆相互の学び合いと手立て ・時間時間の達成目標をはっきりさせることで、グループ内で実習が身に付き助け合えるようにしている。 ・各自で授業の振り返りができるようにワークシートの内容を工夫している。</p>	<p>(裁縫) A 指導目標の明確化と学習の見通し ・各単元の学習内容が見通せるように、時間配分や計画を単元始めに提示する。 ・その学習での達成目標になるような出来上がり見本などをみせ、意欲付けをする。 ・2時間の学習のめあてが明確になるように、教師が各グループを回って、学習内容の理解や作業手順などについて個別に支援を行う。</p> <p>D 補助教材の活用 ・手縫いの基本になる玉結び、玉止め、なみ縫いは、確実に身に付けられるように動画、拡大図、実物などを有効活用する。 ・ミシンの扱いでわかりにくい部分は、常時グループ内に説明図などをおいて、いつでも各自が確認でき、自信をもって取り組めるようにする。</p> <p>E 相互の学び合いと手立て ・早く作業が終わった児童を、ミニ先生として、グループ内の教え合いを促す。</p> <p>(調理) B 教材の開発と工夫 ・発展的学習では、児童がやりたいという活動に対し、可能な範囲で希望を活かし協力することで、自主性や課題意識を高める。</p> <p>D補助教材の活用 ・ワークシートを活用し、教材への理解を促すと共に事前の計画で全員が見通しをもって活動に取り組めるようにする。</p> <p>E相互の学び合いと手立て ・グループの中での役割分担や助け合い教え合いを推進し、全員が達成感をもてる調理実習にする。</p>
<p>今年度の成果と課題</p> <p>【成果】</p> <p>【課題】</p>		